

宮崎県版BCPひな形

I. オールハザードBCP策定の考え方……………1（表紙）

II. 分析・検討シート……………2

III. 計画シート……………3－4

【オールハザードBCP策定の考え方】

■ オールハザードBCPとは

事業中断を引き起こすいかなる不測の事態が発生したとしても、重要な事業（製品・サービスの供給）を継続するために、いかにして被害を少なくし、早期に復旧・再開させるかを検討し、策定した方針、体制、手順を示した計画のこと。

■ オールハザードBCPの考え方

従来型のBCPは、地震・風水害・感染症等、想定するハザードごとにBCPを作成しています。一方で、宮崎県版BCPひな形を含むオールハザードBCPは、地震・風水害・感染症といった「原因事象」ではなく、影響を受けるリソース（経営資源。例えば、従業員の不足・停電等）といった「結果事象」で戦略を検討します。

したがって、従来型のBCPは「原因事象型BCP」、オールハザードBCPは「結果事象型BCP」と言うことができます。

【策定プロセスの概要】

詳細の記入要領については、「BCP策定の手引き」をご参照ください。

【原因事象】
想定するハザード

地震
風水害
感染症
サイバー攻撃
火山噴火
大雪
等

【結果事象】
影響を受けるリソース

~~従業員~~
~~建物~~
~~機械設備~~
~~システム~~
~~電力~~
~~交通機関~~
等

＜分析・検討シート＞ 2 ページ目

STEP I	■ リスク分析 本社・支社・工場等の立地別に予測可能なリスクをハザードマップ等により洗い出します。また、立地に関係ない全社共通のリスクも把握します。ただし、予測不能なリスクもありうることを理解しておく必要があります。
STEP II	■ 目標設定 何らかのリスクが発生し事業が中断した場合に、ステークホルダーから要求されるであろう事項を想定し、各部門の優先業務を洗い出し、目標復旧時間を設定します。また、各優先業務の遂行に必要な社内外リソースを洗い出します。
STEP Ⅲ①	■ 戦略検討A リソース別対応戦略 何らかのリスクが発生し事業が中断した場合の、発生後の対応戦略を検討します。 戦略検討Aでは、リソース（経営資源）ごとに被害レベル別の「あるべき姿」「現状、できていること/いないこと」を検討します。
STEP Ⅲ②	■ 戦略検討B 優先業務の対応戦略（あるべき姿） 何らかのリスクが発生し事業が中断した場合の、発生後の対応戦略を検討します。 戦略検討Bでは、「STEP II：目標設定」で挙げた「各部門で優先して実施する業務」について、「あるべき姿」としての対応戦略を検討します。

＜計画シート＞ 3 ページ目・4 ページ目 BCPの作成

■ 計画シートの7項目（「1.基本方針」、「2.対応責任者」、「3.重要事業、目標復旧時間」、「4.対応手順（初動）」、「5.対応手順（事業継続）」、「6.資金調達」、「7.事前対策の実施計画」）を記入することで、BCPが完成します。

＜シート項目＞もくじ

2 ページ	分析・検討シート	STEP I・II	「リスク分析」⇒「目標設定」	☞ 手引きp.7-9
		STEPⅢ①②	戦略検討A・戦略検討B	☞ 手引きp.10-11
3 ページ	計画シート①	基本方針	事業中断をもらたす事態が発生した場合の基本方針	☞ 手引きp.12-13
		対応責任者	総括責任者、本社機能維持担当、事業継続担当の選定	
		重要事業、目標復旧時間	早期復旧が必要な重要事業とその目標復旧時間	
		対応手順(初動)	初動対応の対応手順（避難、負傷者対応、安否確認等）	☞ 手引きp.13-14
4 ページ	計画シート②	対応手順(事業継続)	重要事業の対応手順・発生後の対応戦略	☞ 手引きp.15-17
		資金調達	資金面での対策の計画	☞ 手引きp.18
		事前対策の実施計画	事前対策、今後実施すべき準備事項	

1

STEPⅠ：リスク分析

👉手引きp.7

No	種別	拠点名称	拠点住所	避難場所	地震の震度	津波高・到達時間	洪水：浸水深	土砂災害	その他 (全社共通リスク)
1									
2									
3									
4									
5									
6									

「地震の震度」及び「津波高・到達時間」は、「宮崎県地震・津波及び被害の想定について」の「市町村別最大震度一覧」（P.11、P.6～P.8）（https://www.pref.miyazaki.lg.jp/documents/4579/4579_20200318114347-1.pdf）から確認して記入。
「洪水：浸水深」は、「宮崎県管理河川の洪水浸水区域図について」（<https://www.pref.miyazaki.lg.jp/kasen/kurashi/shakaikiban/kouzuishinsui.html>）から確認して記入。
「土砂災害」は、宮崎県「土砂災害警戒区域等マップ」（<https://www.sabomap.jp/miyazaki/>）から確認して記入。

＜新型コロナウイルスのリスク分析＞

👉手引きp.8

（１）３密となりやすい場所・時間帯

主管部門	３密となりやすい場所	３密となりやすい時間帯

（２）欠勤者増の場合に補充が必要な業務

--

（３）サプライチェーン問題（特に海外での生産、調達がある場合）

商品	生産拠点	調達先会社

（４）需要の減少

事業	考えられる要因

STEPⅡ：目標設定

👉手引きp.9

在宅勤務　○：可能、△：一部可能、×：不可

No	部門	優先業務	目標復旧時間	在宅勤務	社内リソース	社外リソース
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						

STEPⅢ①：戦略検討A　リソース別対応戦略

👉手引きp.10

○：できている、△：できていないところがある、×：できていない

No	リソース	現地での復旧戦略 ＜建物は無事だが様々なリソースに被害が発生＞			現地での復旧戦略以外の戦略（代替戦略等） ＜建物が損壊して使用不能となるほどの状況＞		
		あるべき姿	現状	現状、できていること／いないこと	あるべき姿	現状	現状、できていること／いないこと
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							

STEPⅢ②：戦略検討B　優先業務の対応戦略（あるべき姿）

👉手引きp.11

No	各部門で優先して実施する業務	現地での復旧戦略 ＜建物は無事だが様々なリソースに被害が発生＞	現地での復旧戦略以外の戦略（代替戦略等） ＜建物が損壊して使用不能となるほどの状況＞
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			

☞ 手引きp.12

1. 基本方針 事業中断をもたらす事態が発生した場合には、以下の基本方針に則り対応する。

1	
2	
3	

2. 対応責任者

統括責任者	全社的な意思決定を行い、対応全体を統括する。
(代行者)	
本社機能維持責任者	安否確認や安全確保等、本社機能の維持に関する実務を指揮する。
(代行者)	
事業継続責任者	重要事業の継続に関する実務を指揮する。
(代行者)	

3. 重要事業、目標復旧時間

重要事業	
目標復旧時間	

☞ 手引きp.13

4. 対応手順（初動）

(対策本部を立ち上げ、以下の手順で対応を実施します。)

①避難（含む事業所内のお客様の安全確保）

基準	
避難場所	

②救助・負傷者対応

救助・応急処置道具の所在	
救急搬送先①	(TEL :)
救急搬送先②	(TEL :)

③安否確認

基準		確認方法①	
対象者	総計 人 (年 月現在)	確認方法②	
集計担当者		確認方法③	

※夜間・休日に事業中断をもたらす事態が発生した場合の対応

参集メンバーは事業中断をもたらす事態発生後、安全に移動できることが確認でき次第（火災等が発生していない、夜間でない 等）、定められた場所に参集し、災害対応を行う。	
参集メンバー	
参集場所	代替場所:

統括責任者

本社機能維持担当

<メンバー>

①状況確認

確認対象	担当者（部門）

②帰宅許可

基準	
対象者	
留意点	
の残留対応者	

③備蓄品の状況（複数事業所がある場合は別紙とする）

品名	数量	品名	数量

※飲料水（一人1日3リットル）と食料は最低3日分、できれば7日分を準備しましょう。

☞ 手引きp.14

記入例は、ピーク時(2022年当時)の「業種別ガイドライン（内閣官房）」を参考に作成しています。

<新型コロナウイルスの感染拡大防止対応>

①従業員の健康管理

出勤前 自宅待機・療養	
勤務中	

②勤務体制

勤務体制	
通勤手段	
出張	国内
	国外

③感染防止策

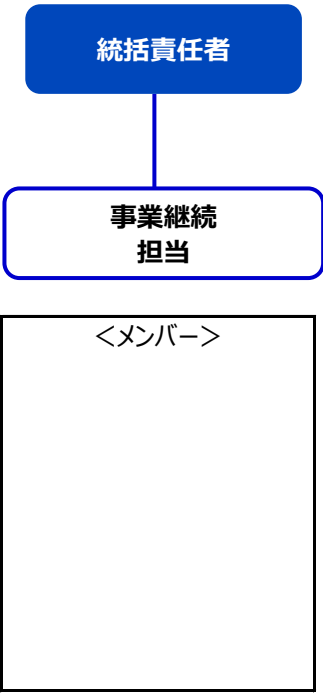
飛沫感染 防止	3密の 回避	身体距離の確保	
		換気の徹底	
		施設内混雑の緩和	
	飛沫防護		
接触感染 防止	清掃・消毒		
	接触の回避		
その他の感染症予防策			

📄 手引きp.15

5. 対応手順（事業継続）

事業継続対応

重要事業の継続



対応手順		

発生後の対応戦略（現状で出来ること）📄 手引きp.15

NO	各部門で優先して実施する業務	現地での復旧戦略<建物は無事だが様々なリソースに被害が発生>	現地での復旧戦略以外の戦略（代替戦略等）<建物が損壊して使用不能となるほどの状況>
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			

📄 手引きp.17

<新型コロナウイルスの事業継続戦略>

①作業空間の3密を避けるための戦略

3密となりやすい作業場所	リスク回避戦略	リスク低減戦略

②欠勤増となった重要事業への要員補充

--

③サプライチェーン問題（既定の調達先からの供給停止）への対応戦略

供給停止の可能性のある商品	保有在庫での対応	代替調達先の確保による対応

④需要量減少への対応戦略

需要量減少の可能性のある事業	余剰となる設備を活かした新しい事業	余剰となる人員でできる新しい事業

6. 資金調達📄 手引きp.18

必要な資金	概要	予想資金（3ヵ月）	
(A) 経営維持費用	従業員への給与の支払い		万円
	買掛金の支払い		万円
	金融機関からの借入金の返済		万円
	その他		万円
(B) 災害復旧費	被災建物の復旧		万円
	被災設備の復旧		万円
	その他		万円

調達可能な資金	概要	予想資金（3ヵ月）	
(C) 利用可能な手元資金（現在の現預金）	(C) 利用可能な手元資金（現在の現預金）		万円
	(D) 回収可能な売掛金+稼働可能な事業所での売り上げ見込み		万円
			万円
			万円
			万円
必要な資金（合計）		(A) + (B)	0万円
調達可能な資金（合計）		(C) + (D) + (E) + (F) + (G)	0万円

7. 事前対策の実施計画（あるべき姿を実現するために今後実施すべき準備事項）📄 手引きp.18

NO	リソース	実施内容	担当部署	目標期限
1				
2				
3				
4				
5				
6				